おかげさま

93号

真宗大谷派
高徳寺通信

2021年新年号

蓮如上人のお手紙『疫癘のお文』

当時このごろ、ことのほかに疫癘とてひと死去す。これさらに疫癘によりてはじめて死するにあらず。生まれはじめしよりして、さだまれる定業なり。さのみふかくおどろくまじきことなり。しかれども、いまの時分にあたりて死去するときは、さもありぬべきようにみなひとおもえり。これまことに道理ぞかし。このゆえに阿弥陀如来のおおせられけるようは、「末代の凡夫、罪業のわれらたらんもの、つみはいかほどふかくとも、われを一心にたのまん衆生をば、かならずすくうべし」とおおせられたり。かかる時はいよいよ阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、極楽に往生すべしとおもいとりて、一向一心に弥陀をとうときことと、うたがうこころつゆ・ちりほどもつまじきことなり。かくのごとく、こころえのうえには、ねてもさめても南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏ともうすは、かようにやすくたすけまします、御ありがたさ、御うれしさをもうす御礼のこころなり。これをすなわち仏恩報謝の念仏とはもうすなり。あなかしこ　あなかしこ

訳

ちかごろ、多くの人が伝染病にかかって命を落としています。しかし、人間というものは、伝染病が原因で死んでいくものではありません。人間は生まれたときから必ず死んでいく「いのち」を生きているのであり、それが道理なのです。そうとは言え、今、このように多くの人が亡くなりますと、きっと様々な祟りや前世の行いによって伝染病が流行し、人間は死ぬのだというように人は思うものです。阿弥陀如来は、「末世の凡夫である我々の罪がどれほど深くとも、如来を一心にたのむ衆生を、必ず救う」と誓われました。このような時こそ、いよいよ阿弥陀如来を深くたのみ、お浄土に往生できると信じ、一心に阿弥陀如来を尊び、疑うこころを露・塵ほども持つべきものではありません。このように心得たうえに、寝ても覚めても南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と称えるお念仏こそ、私たちを必ず救いとってくださる如来のありがたさ、うれしさの心から、湧き出るお念仏なのです。これをすなわち仏恩報謝の念仏というのです。（仏様からのはたらきは）もったいないことでございます。

この「疫癘のお文」(4帖目9通)というお手紙は、今から528年前に蓮如上人によって書かれたもので2020年の高徳寺の報恩講で拝読させて頂きました。(この模様はYouTubeで観ることが出来ます)新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、いまだ収束しておりませんが、約500年前にも同様の状況があったのですね。ここからは、報恩講法話にご出講くださった海法龍ご住職のお話し(抜粋)です。

「疫癘とは、疫病つまり伝染病です。当時はウイルス等の原因で発病し、亡くなるということは科学的にわかっていなかったので、多くは奇病に取り憑かれたという理解だったようです。ですから何かの祟りだとか、前世の因縁でこうなったとか、疫癘で死んだら成仏しないとか、悪霊の仕業だから祈祷して、平癒を願うとか…そして国も元号を変えて悪霊を退散させるとか、そういうことが盛んに行われていました。そうした混乱の中でこのお文は、この状況をどう受けとめるのか、どういう心構えで生きることが大切なのか…という問いかけに応えた"お文"だと言われています。人は疫癘で死ぬのではない。疫癘は縁であり、人が死んでいくことは生まれた時からあらかじめ定まっているものである。だから、何かの祟りや障りではないから恐れ怯えなくても良いとおっしゃるのです。しかし、「そんなこと言われても」という釈然としない感情もどこか残ります。そういう道理を道理として、私たちはなかなか受け止めることができないのです。生きることの道理を受け入れられずに"生"に執着し自己保身のために自分も他者も傷つけてしまう。それこそが罪深い凡夫である私たちの真実の姿です。しかし教えによってそのことが自覚され、凡夫であることに自分自身が本当に目覚めるとき、そのような存在を必ずたすけようと誓われた阿弥陀仏の本願、南無阿弥陀仏の"すくい"に出遇っていけるのだと蓮如上人はおっしゃっているのです。人間が幸せを求めてやってきたことが、かえって人間を苦しめる結果を招いてしまった。そしてまた、そのことに気づくことができない程私たちは自分たちのことが何も見えていないのです。このことを仏教の言葉では「無明」と言います。そしてこの無明の罪を背負い生きる存在を蓮如上人は、"罪業深重の凡夫"とおっしゃっているのです。人間の無明性が感染者を誹謗中傷・差別してしまうという過ちをどの時代においても繰り返してしまっています。その無自覚さを他のお文(2帖目13通)に「無始よりこのかたの、無明業障のおそろしき病」と、人間の抱えている根源的な病だと示されているのです。"南無阿弥陀仏"の教えは私たちに人間の本質を明らかにしており、その教えを生活の中心に据えて、罪業の痛みを胸に抱き、聞法の精神に立ち返りながら、この難局を生き抜いて欲しいという如来からの呼びかけなのです。」…コロナ禍に何度も噛み締めたいお文ですね。

報恩講のご報告

去る10月24日(土)報恩講を厳修いたしました。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一般のご参詣をご遠慮して頂き、総代、世話人の方々とスタッフのみでお勤めさせて頂きました。三密を避けた本堂内に、開け放った窓からの秋風が爽やかでしたが、去年までの外陣(げじん)の人熱(いきれ)が懐しく思い出されました。ご法話は、海法龍(かいほうりゅう)先生がご出講されて、『人間の本質』～新型コロナウイルス感染拡大から問われていること～という題でお話しを頂きました。ご法話とお文拝読の模様は、インターネット配信させて頂いております。

◆今年の報恩講もお天気に恵まれたのですが、コロナ禍で寂しい限りです…。

◆海先生の前には、アクリル板を設置しました。

来年は縁のある方々と一緒にお勤め出来ますことを念じております。

◆お隣の源通寺の副住職小笠原 翔さん。前日のセッティングから、当日のスタッフまで…本当にお世話になりました…m(__)m

高徳寺報恩講の法話とお文の模様はHP※とYOUTUBEでご覧いただくことが出来ます。

※HPからもYOUTUBEへ移動して同じ動画が観れます！

◈高徳寺ホームページから

インターネットで「高徳寺」で検索してください。

高 www.koutokuji.or.jp 高徳寺

←こちらをクリック！

※いろいろな方が出されているブログや宣伝もありますのでこのURLをクリック！

公式ホームページが開きますので、スクロールしてみてください。
"ご挨拶"の次に"高徳寺からのお知らせ"とあり……

『高徳寺 報恩講動画配信』
ご法話の様子をYoutubeにアップしました。
下記URLへアクセス頂きますと動画を見ることが出来ます。
報恩講の動画 ← ここをクリックして頂くとご覧になれます♪

◈YOUTUBEから

「2020 高徳寺 報恩講」と検索して頂くとご覧になれます。

☆コロナ禍では、三密にならない手段で仏法を味わいましょう。
収束(終息)するまでは、引き続き氣をつけて参りましょう！

釋了吾の八女日記

皆様、こんにちは。秋も深まり、葉も色づいてまいりました。八女でもイチョウやモミジなどが綺麗な紅葉を見せています。皆様のお住まいの地域では、どのような秋を感じておられるでしょうか。新型コロナウイルスに振り回された一年も、もう残すところ一ヶ月ほどになってきました。本当にあっという間の一年でした。今年は格段に早く感じています。新しい仕事、新しい暮らし、新しい生活様式。去年とはまた違った"早さ"でありました。そして冬の到来とともに、新たに氣を引き締めて感染対策をしながらお参りをしております。八女では、最近になってお通夜と枕勤めを担当させていただくことが増えました。枕勤めというのは、おとくなりになった方のご遺体の前でお勤めすることで、大体はご自宅か葬儀場で行います。到着をしてご遺族の方に挨拶をし、おとくなりになった方のお顔を拝見したのちに「仏説阿弥陀経」というお経をお勤めします。毎回毎回、葬儀場やご遺体のあるお宅にお伺いするたびに、ドキドキします。お名前を間違えないだろうか、住所はここであっているだろうか、所作はおかしくないだろうか…。土地勘もまだないものですからドキドキの連続です。ドキドキと言えば、ある日のことです。急にお通夜が入りいざ駆け付けて葬儀場に到着しました。大体の葬儀場には大きな「〇〇家通夜葬儀場」と書かれた看板がありますが、そこにはおとくなりになった方の名前とは違う看板がありました。「あれ？」と思い確認してみると、なんと葬儀場を勘違いしていたのです。前日にもその葬儀場で葬儀を行っていたので、「あれ、続くものだな」と思っていたのですが…。普段から30分以上前には着くようにしていたので、慌てながらも正しい葬儀場には時間前に着くことは出来ましたが、本当に肝を冷やしました…。連日おとくなりに

なる方が続く時などは、〇〇家が〇〇斎場、□□家が□□会館、△△家が△△ホール、という具合で混乱してきます。時間もそれぞれ違いますし、葬儀形態も様々です。きちんと確認を取ってメモを持って行かないと間違えてしまいます。忙しい時は確認がおろそかになりがちですが、大事な仏事ですから、間違えの無いように、今後も注意をしていきたいと思います。

ところで、私が住んでいる八女市のことを少しお話ししたいと思います。福岡県の南部、南に下れば熊本で、東に行けば大分まですぐ…という場所になります。特産品は八女茶をはじめ電照菊、仏壇…イチゴなどの果物もおいしいです。特に、八女に来てからはお茶を飲む機会が増えました。静岡茶とは違った風味がありとてもおいしいです。関東圏にも流通しているかと思いますので、皆様も是非飲んでみてください。また、農家の手作りの柚子胡椒が本当においしいです！安くてうまかもんがいっぱいです。(笑) 気候は大体涼やかで、よく風が通ります。近年は豪雨が毎年夏に起こりますが、九州全域がそうなので、基本的には穏やかな所です。八女に暮らしはじめて半年あまり…この土地をとても気に入っております。唯一、惜しいと思うところは、海に近くないというところです。なぜ「海」かと言うと、私は小学校の頃から釣りが好きで、よく海に釣りをしに行っていました。以前は船に乗っての釣りがほとんどでしたが、最近は〝堤防釣り〟に嵌りまして、休みの日には、糸島という場所によく通っております。釣りは三密になりませんし、人と接触しません。また、釣り餌と仕掛け+高速代ぐらいの出費で一日遊べる最高の息抜きです。釣れない時もありますが、海風が気持ち良いですし、当たりの日には、25センチ程の鯵が何匹もお土産にできたりします。釣った魚は、フライや刺身で食べることが多いですが、刺身で食べる時は九州の刺身醤油で食べます。九州ではほとんどの醤油が〝甘口〟で、これがまた刺身(や馬さし等)と相性が抜群なんです。九州に暮らすまでは、関東の醤油を使ってましたが、今では九州の醤油はなくてはならない存在となっています。その土地に根ざした〝食〟の文化、それを体験出来るということは、本当に有り難いことだと思います。

つづく…

坊守便り

こんにちは、坊守です。早いものでもう年末。二〇二〇年は皆様にとってどんな年でしたでしょうか。私は学びの年でした。
その中で先日、心理学講義でハラスメントについてのお話を聞きました。
ハラスメントってパワハラ、モラハラ、セクハラなどよく聴くワードですが種類は沢山あって、
スメハラ、ヌーハラ、カラハラ、エアハラなんていうのもある。

・スメハラはスメルハラスメント（匂いで迷惑をかける）
・ヌーハラはヌードルハラスメント（麺類をすする音で迷惑をかける）
・カラハラはカラオケハラスメント（カラオケを無理に勧める）
・エアハラはエアーハラスメント（室内温度での不調和と、特定の人への嫌がらせ目的で場の空気を操作する事の２種）

小さなものから大きなものまで、出せばキリがなさそうです。
よくよく考えてみると、ハラスメントって自分でもやってしまっているかも？なんて思いました。
ハラスメントの定義は色々な場面での「嫌がらせ、いじめ」を言います。
他者に対する発言・行動等が本人の意図に関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、
脅威を与える事を示す「人権問題」なのだそうです。
家族間のモラルハラスメントなども増えているそうですが、最近は夫から妻だけでなく、妻が夫にもとても多いのだとか。
「男のくせに」、「女のくせに」も立派なハラスメントだそうですよ。
何か自分にうまく処理できない感情などがあると、それを発散するために身近にいる人に向けてしまうのは悲しい事ですよね。
それはやられた方だけでなく、やった方の人も本当の意味でよい気持ちにはならないはずですから。
そして、やっている方は、自分ではなかなか気付きにくいと言います。
細かく気にするとキリがないと思いがちですが、こんな事が人を不快にさせてしまうのか、という事を知るだけでも
注意していけるのではないでしょうか。
人間関係を気持ちよく過ごすために、どんな事がハラスメントなのか？調べてみるのもお勧めです。
そして、自分がハラスメントを受けていると感じたら勇気を持ってNOと言っていきたいですね。

二〇二一年も、どうぞ宜しくお願い致します。

合掌　釈尼香心

2021年の修正会について

毎年1月1日の午前10時より、高德寺本堂にて勤まる修正会ですが、新型コロナウイルス感染者の増大にともないまして、対策を取らねばならなくなりました。誠に残念ではありますが、堂内の"密"を避けるため、修正会の法要は、住職（寺族）が勤めることといたします。なお、本堂内でのお参り（お焼香）は、午前中に限り、ご希望の方は、どなたでもしていただけます。（検温や手の消毒等にご協力をお願いいたします。）
また、玄関内では、お線香（墓参用）をお分けしておりますので、お入り用の際はお声をかけてください。（維持費の納入やご相談もお受けいたします。）何卒、ご了承いただきますよう、宜しくお願いいたします。

◆ 法事や お墓のこと、その他 お寺に関する ご相談、お問い合わせ、ご確認などは、一年を通していつでもお受けいたしております。お寺にご連絡ください。（住職が対応出来ない場合がありますので、必ずアポ（面会の予約）をお取り下さい。）

カンパ 御礼

いつも応援して頂きまして、誠に有り難く思っております。この場を借りて御礼申し上げます。

磯村 貴美子さん　神野くららさん　鈴木 新一さん
江守 敏雄さん　大槻 宏子さん　（いただいた順です）

年間行事の予定を11ページにご案内しておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、**変更**や**中止**、**延期**などの対応をさせていただく場合があります。毎月、**ホームページ**にて決定事項（開催/中止など）をお知らせいたしますので、ご確認ください。電話でのお問い合わせも受け付けております。宜しくお願いします。

2021ねん 高徳寺年中行事

※新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、予定の行事が中止になることがあります。HPでご確認ください。

1月
◆修正会（しゅしょうえ）（1月1日）
※誠に残念ですが、今回は住職（寺族のみ）がお勤めします。
◆寺子屋の時間（1月30日(土)）
※毎回 14:00～16:00です。

2月
◆寺子屋の時間（2月27日(土)）

3月
◆おみがきの会（3月14日(日)）
◆春彼岸会（3月17日～23日）
3月20日（春分の日）の11:30より本堂で永代経の法要が勤まります。
◆寺子屋の時間（3月27日(土)）

4月
◆寺子屋の時間（4月24日(土)）

5月
◆寺子屋の時間（5月29日(土)）

6月
◆寺子屋の時間（6月12日(土)）

7月
◆おみがきの会（7月4日(日)）
◆盂蘭盆会（お盆）（7月13日～16日）
◆寺子屋の時間（7月24日(土)）

8月
◆寺子屋の時間（8月28日(土)）

9月
◆おみがきの会（9月12日(日)）
◆秋彼岸会（9月20日～26日）
9月23日（秋分の日）の11:30より本堂にて法要が勤まります。お参りください。
※寺子屋の時間はお休みします。

10月
◆報恩講（10月23日(土)）
※詳細は寺報・HPでお知らせします。
◆寺子屋の時間（10月2日(土)）

11月
◆寺子屋の時間（11月13日(土)）

12月
◆おみがきの会（12月12日(日)）
◆寺子屋の時間（12月18日(土)）
※どちらも終了後に"望年会"を予定しております。

※還浄～亡くなってお浄土に還っていかれること。

師走に入り新型コロナウイルスの感染拡大が勢いを増している。そんな中、長い間お育てを頂いたご住職、そして18歳からの親友が相次いで還浄(げんじょう)された。法事や葬儀で常々、亡くなられた方と自分はいったいどんな関係だったのか？そして何だったのか？また何を願われているのか？そういったことを尋ねてください…と申し上げている。自分にとって大切な人の死は悲しい。しかし残された私がそのことから何も学ばず、何ひとつ新しく生み出せないとすれば、それはもっと悲しい…このことを忘れずに、いのち尽きるその日まで、自分を歩ませて頂こうと思う。

釋 義祐

okagesan 93

欲ふかき人の心と降る雪は
つもりつもりて
われを忘れる

元気&復活の心を灯そう！

《表紙の絵》
「オイルランタン」(おかげさんバージョン)
住職愛用のドイツMEWA社のランタン。
(1970～80年代・旧東ドイツ製)

◆法語…匿名作
(本山で頂いた法語カレンダーより)

発行日
2020.12.18

発行
真宗大谷派 高德寺

編集
住職 新井 義雄
(法名：釋義祐)

〒164-0002
東京都中野区上高田1-2-9
☎ 03-3368-6947
FAX 03-3362-8019